

2020年4月20日

各位

会社名 株式会社小僧寿し  
 代表者名 代表取締役社長 小林 剛  
 (JASDAQコード: 9973)  
 問合せ先 経営企画部室長 毛利 謙久  
 (TEL. 03-4586-1122)

## 第6回新株予約権の発行により調達した資金の用途変更に関するお知らせ

当社は、2019年9月27日にEVO FUNDを割当先として発行いたしました「株式会社小僧寿し 第6回新株予約権（以下「本新株予約権」といいます。）により調達した資金の用途について、2020年3月18日付「第6回新株予約権の発行により調達した資金の用途変更に関するお知らせ」にて、2019年10月から12月の期間に、実施した資金の用途変更について、お知らせいたしました。この度、第6回新株予約権の発行により調達した資金より、2020年1月から3月の期間においても、資金用途を変更いたしましたの、お知らせいたします。

### 1. 本新株予約権の発行により調達した資金の用途変更内容及び理由

当社は、2020年3月18日付「第6回新株予約権の発行により調達した資金の用途変更に関するお知らせ」にて、下記のとおり、資金用途を変更いたしました。

#### 第6回新株予約権の発行により調達した資金の、変更後の資金用途

具体的な用途	変更後の資金用途 (百万円)	現時点における充 当額 (百万円)	支出時期
① 有利子負債の圧縮を目的とした借入金の返済	170	170	2019年10月
② 持ち帰り寿し店「小僧寿し」「茶月」の複合 ブランド併設費用	70	19	2019年10月～ 12月
③ 複合型宅配事業店舗の新規出店費用	130	10	2019年10月
④ 店舗機能増設、インフラ整備のための設備投 資資金	7	3	2019年10月～ 2021年12月
⑤ <u>運転資金への充当</u>	<u>195</u>	195	2019年10月
資金用途額 合計	572	—	2019年10月
現時点における充当額合計	—	397	—

上記、変更後の資金用途は、2019年12月期における業績の減退により、連結営業損失が△195百万円となるなど、赤字の状況にあり、運転資金に窮する状況となった点、特に、2019年10月度に生じた記録的な台風による、大幅な売上、利益の減退によって、2019年10月度以降の運転資金を確保するために、本新株予約権の発行により調達した資金の一部を、運転資金に充当しなければ、支払未了となる状況となるため、2019年10月から12月の期間において、累計195百万円を運転資金として充当したものであります。

しかしながら、2020年1月以降におきましても、2020年1月度の年始期間における桶寿司等の販売数量が予定を下回る等の営業苦戦が生じる中、2019年12月度までに販売を行いましたおせち商材の仕入代金の一括支出等が資金繰りを大きく圧迫する要因となりました。また、主力事業である持ち帰り寿し店「小僧寿し」の3月度以降において、平日フェアの収益性は堅調に推移したものの、コロナウィルスの蔓延に端を発し、週末フェアに連動した予約販売商品が予定数量以下の販売数で推移した点、連結子会社であるスパイシークリエイティブ社のレストラン事業の収益性が減退するなどの影響が生じ、資金繰りを圧迫させる要因となりました。

これに伴い、当社は2020年1月から3月の期間において、さらに112百万円を運転資金に充当致しました。

2020年1月度から3月度の期間における、運転資金の充当により変更した資金使途

具体的な使途	変更後の資金使途 (百万円)	現時点における充 当額 (百万円)	支出時期
① 有利子負債の圧縮を目的とした借入金の返済	170	170	2019年10月
② 持ち帰り寿し店「小僧寿し」「茶月」の複合 ブランド併設費用	70	19	2019年10月～ 12月
③ 複合型宅配事業店舗の新規出店費用	19	11(※1)	2019年10月
④ 店舗機能増設、インフラ整備のための設備投 資資金	7	3	2019年10月～ 2021年12月
⑤ 運転資金への充当 (2020年10月～12月)	194 (※1)	194 (※1)	2019年10月～ 12月
⑥ 運転資金への充当 (2020年1月～3月)	112	112	2020年1月～3 月
資金使途額 合計	572	—	2019年10月
現時点における充当額合計	—	509	—

※1 2020年3月18日付開示にて、記載を致しました金額と相違が生じており、訂正記載をしております。

上記資金使途の変更に伴い、現時点における運転資金への充当額は306百万円となりました。これに伴い、「② 持ち帰り寿し店「小僧寿し」「茶月」の複合ブランド併設費用における設備投資費用」は、調達資金の残高より充当する事が可能でございますが、当初予定していた資金使途のうち「③ 複合型宅配事業店舗の新規出店費用」の資金使途に対して、当初資金使途額である250百万円から比較し、231百万円の不足が生じ、また、「④ 店舗機能増設、インフラ整備のための設備投資資金」の資金使途に対して75百万円の不足が生じ、合計306百万円の不足が生じている状況となりました。

## 2. 今後の見通し

本新株予約権の発行により調達した資金の資金使途から、306百万円の不足が生じている状況となっております。この不足額を補い当該資金使途を計画通りに遂行するため、新たな資本政策を含めた資金調達の検討を進めてまいります。

以上